

実践記録（小6・道徳）

1 題材 公正・公平について考えよう

2 ねらい

様々な場面で公平・公正であるかを考える活動を通して、みんなが気持ちよく過ごせるように公正・公平に他人と接することが大切だという考えを深めることができるようにする。

3 手立て

・ 自分の立場を明確にする活動

様々な公正・公平について考える場面を見て、比較することで、公正・公平な態度でいるために大切なことについて考えを深めることができるようにする。

・ 考えを共有する工夫

ロイロノート・スクールの共有機能を活用して考えを共有することで、グループ内や学級内での話し合いの活性化を図ることができるようにする。

4 実践計画

(1) 公正・公平なクラスにするために大切なことを考えよう・・・1時間

5 実践の様子

時数	主な学習活動
第1時	<p>1 めあてをつかむ めあて：公正・公平なクラスにするために大切にしたいことについて考えよう。</p> <p>2 事例を提示し、自分なりに公正・公平と思えるか考える。 (1) 自分なりに公正・公平かどうかを考える。 「算数の宿題を20問出されたときに、算数が苦手なCさんは、先生に3問だけでよいと言われたので頑張って解いた。」など、公正・公平かを考える場面を書いたシートをロイロノートで6種類用意し、クラス全員に送った。クラス全員の意見が視覚的に分かるようにするために、公正・公平だと思うものは水色、そうでないと思うものはピンク色、迷うものは白色でロイロノートの提出箱に提出させた。 (2) グループで話し合う。 グループで、それぞれの場面が公正・公平と思うかを話し合わせた。少人数で話すことで、自分の意見に自信をもつことができた児童が多くいた。</p> <p>3 クラス全体で話し合う。 (1) 6つの場面のうち1つの場面を取り上げて、公正・公平かを全体で考える。 クラス全体で、それぞれの場面が公正・公平と思うかを話し合わせた。「算数の宿題が苦手なCさんは3問だけでよい。」と言われた場面について、公正・公平と思うか思わないかで、児童は半分ずつに分かれた。 それぞれの理由を聞くと、公正・公平と思う児童からは、「苦手なのによく頑張っているから。」「できないのにやってもやる気がなくなってしまふからできるところまでいい。」などの意見が出た。一方で、公正・公平と思わない児童からは、「できないならもっと解かないとできるようにならない。」「宿題の量が違うのは不公平。」など</p>  

の意見が出た。

公正・公平と思う、思わないの意見が大きく偏ったものに対して、選んだ理由を聞くことで、クラス全体で選んだ理由を明確にしていった。

(2) 2つの場面を比べて公正・公平か考える。

状況の似ている場面2つを取り上げ、その2つで公正・公平と思うか、思わないか意見が異なる児童になぜ違うのか発問し、公正・公平にするために考えるべきことに気付くようにさせた。「そうじの時間にDさんとEさんはそうじをしないでおしゃべりばかりしていたので、あとの2人でそうじ場所のほとんどをきれいにした。」「ケガをして車いすに乗っているHさんは、給食当番をしなくていいと言われた。」という2つの場面を比べた。すると、掃除の場面は公平・公正ではなく、給食の場面は公正・公平だと考える児童が多かった。意見を聞くと、「できるのにやらないのとできないのは違う。」「けがでできないのは仕方がない。」などの意見が出た。

(3) 公平・公正な態度で接するにはどのようなことを気に掛けるか考える。

中心発問：公正・公平なクラスにするために大切にしたいことは何か考えよう。

4 授業の学びを確認する。

公正・公平なクラスにするために大切にしたいことは何か、自分の考えを記述させた。その後、数人を指名し、記述内容を発表させた。

以下に、A児の授業後の振り返りを示す。

A児の授業後の振り返り

みんながクラスのために何かをするだけではなく、相手の意見や話し方を理解し、理解させることでこのクラスで何が公正公平かを考えて大切にすることがいいと思った。

6 成果と課題

- ロイロノートを使って自分の立場を明確にしたことで、自分が多数派なのか少数派なのかがわかりやすくなった。
- ロイロノートで意見を共有したので、誰がどちらの立場で発表するかがわかり、話し合いが活性化した。
- 場面が6つと多くなってしまい、ロイロノートの提出後の画面が分かりにくくなっていた。